

本 会 記 事

研究委員会報告

ソフトウェア研究会

(42年12月1日 於 電子協会議室)

「ディスク・オリエンテッドなデータマネージメント」について三井大三郎氏(三菱電機)がつぎのように報告した。

最近、(1)データ量の増大、(2)入出力機器と補助記憶装置の多様化、(3)IOCS機能の拡張、(4)記憶装置の階層構造などの要請から、新しくデータマネージメントという概念が生れてきた。

その機能としては従来のIOCSの機能に加えて、データファイルコントロール、clerical workの自動化などが必要になってくる。すなわち、(1)データ伝送、(2)ブロッキング、(3)ラベル処理、(4)出力スケジューリング、(5)エラーの処理と回復、(6)ファイルのカatalog、(7)ファイルの作製と分页、(8)機密の保護、(9)大記憶装置上へのファイルの割りつけなどである。

以上の各項について解説があった後、熱心な質疑応答が行なわれた。

続いて西村幹事電気試験所より11月1~5日パリで開かれたISO TC/97 SC5のCOBOLの件について報告があった。ISOの会議では日本は数多くの提案をしたが、その大部分は却下された。それは日本が米国およびヨーロッパの動きをよく知らなかったためである。

各種の提案がCODASYLへ出されることになり、ISOのCOBOLはCODASYL COBOLの部分集合であること、ISOの標準はUSASIの提案と同一であることが望ましいということが決議された。乱処理(Random Processing)については不明の点が多いので今回は検討せず、CODASYLに対してもっとはっきりさせるよう要求することにした。

OLS 研究

(於(財)日本情報処理開発センター)

①(42年12月12日、出席者 名) Terminal networks for Time-Sharing (by Thomas C. Sullivan, Datamation, July, 1967) につき村上委員が、Solving Mathematical Problems (by B. D. Fried, On Line Computing, Mc Graw-Hill, 1967) の前半を近谷委員が報告した。

②(43年1月9日、出席者 名) 近谷委員が前回の Solving Mathematical Problems の後半を、ま

た中村委員が Systems Engineering Problems in Computer-Driven CRT Displays for Man-Machine Communication (by J.E. Ward, IEEE Trans. Vol. SSC-3, No. 1, June, 1967) につき報告した。

③(2月27日、出席者7名) 大須賀主査から、The AED approach to generalized computer-aided design (by D.T. Ross, Proc. ACM National Meeting 1967) につき報告があった。

CL 研究委員会

(1月20日(土) 13:30~17:00、於 電子協会議室、出席者17名)

「新聞語彙調査における言語単位」につき、田中章夫氏(国語研)が調査結果を報告した。また「日本語文の分析」について栗原委員(九大)が報告した。

情報処理月例会

(第3火曜日、於 機械振興会館)

1月例会(1月23日)

「FJCC 67 と米国の計算機事情」と題し、淵一博氏(電試)が講演した。出席者約30名

2月例会(2月20日)

「KEIÖ-TÖSBAC タイムシェアリングシステム」につき土居範久氏(慶大)が講演した。出席者38名
電子計算機用プログラミング(第9回)シンポジウム

(1月10日~12日、於 箱根南強羅ホテル箱根)

恒例のシンポジウムも第9回を迎え、200名を越す盛況を呈した。昼間は、下記のプログラムにより講演、夜は2ないし3会場に分かれ、TSS、数値解析その他につき自由討論が行なわれた。

10日 午前 11:10~12:00

山内委員長: 開会のあいさつ

A. プログラムの診断

五十嵐 滋(東大): FORTRAN プログラムにおける誤りの傾向について

榊原 清(電試): ALGOL 語によるプログラムのエラー発見について

10日 午後 1:30~5:00

B. ファイル

水野幸男(日電): ファイルシステムの現状と問題点

坂本義行、蓼沼良一(電試): 辞書ファイル

F. 自由研究

浅井 清(原研): オン・ライン・プログラミング

のための方法

高田 勝, 大槻説乎, 工藤和彦 (九大): 対話形式の DA シミュレータ

高田勝, 牛島和夫, 有田五次郎, 大槻説乎 (九大), 鶴銅直也 (富士通): 共同利用 計算センターの設計とその動作解析

11日 午前 9:00~12:30

C. 数式処理

戸田英雄 (電試), 鈴木久子 (IBM): FÖRMAC を使用して

黒沢俊雄, 前田英次郎, 藤井 宏, 志水敬子 (三菱原子力): 数式処理における二, 三の試み

渡辺隼郎 (京大数研): 数式処理による常微分方程式の解法のためのプログラミング技法 (I)

C. 数式処理

戸川隼人 (航技研), 照井勝利 (HSE), 西村 剛 (成蹊大), 戸川保子 (航技研): 数式解析のプログラムを FORTRAN で書いた話

大野瑞夫 (慶大): 数式処理用プログラムについて
石黒美佐子, 中村康弘, 稲見泰生, 斎藤直之 (原研): 行列の基本演算の数式処理とリスト処理言語

藤野喜一 (早大): State Graph 作成のリスト処理について

11日 午後 1:50~5:00

D. ディスプレイ

竹下 享 (IBM): IBM 2250 映像表示装置とそのプログラミング・サポート

坪田安弘 (伊藤忠): デジタルグラフィック 270 のフィルム上映

小林光夫, 高沢嘉光 (東大): X-Y プロッタによる透視図の作製

吉村彰芳 (鉄技研): 電子計算機による平面透図の作成

D. ディスプレイ

高橋 理, 金田雄次, 大泉充郎 (東北大): 電子計算機による出力作図方式についての一考察

高橋 理, 小川靖彦, 大泉充郎 (東北大): Incremental X-Y Plotter による図形読取について

穂坂 衛 (東大): マン・マシンインターフェースにおける図形による会話の実例 (16 ミリ映写)

12日 午前 9:00~12:00

F. 自由研究

伏見 章 (公認会計士): 企業監査と電子計算機について

五十嵐 滋 (東大): ALGOL-FORTRAN 様のプロ

グラムの妥当性の判定について

渡辺 坦, 漆原 広 (日立・中研): FORTRAN 言語間の自動変換プログラム

E. 海外事情

一松 信 (立大): BNL, CDC 6600, TSS

野口 広 (早大): D.E. Muller 氏の近況
会食, 閉会: 12日 (金) 12:00~13:30

関西支部

○42年度第1回評議員会議

(42年10月17日(火), 於 生産性関西地方本部会議室)

清野支部長以下8名(委任状19通)出席し, 関西支部の42年度上期の事業報告および下期の計画につき報告, 討議および承認がなされた。

○研究会報告

システムソルビング研究会(第34, 35回)

(42年12月20日(水), 43年1月24日(水), 17:30~20:00 於 生産性関西地方本部会議室)

「Artificial Intelligence through Simulated Evolution」第2章「Evolution Programming」の輪読討議を行なった。報告者 香川一男氏(大阪経済大)出席者はいづれも6名。

プログラミング言語研究会(第1回例会)

(1月31日(水) 15:00~17:00 於 生産性関西地方本部会議室)

「IBM システム 360 のオペレーティング・システム」について, 中野勝之氏(日本 IBM)が報告した。出席者 38名。

○42年度第1回見学会

(42年12月11日(月) 14:00~17:00)

松下電器産業(株)本社計算センターの見学会を(社)大阪工業会コンピュータ研究会と共催した。出席者 54名。

~~~~~  
関西支部の事務所移転 (43年3月18日)

新 大阪市東区内本町橋詰町 58-7

大阪商工会議所ビル5階 生産性関西地方  
本部気付

電話大阪(06)942-6331(代表)

(旧 大阪市西区土佐堀通1の1 大同生命ビル5階)